

令和5年度 第1回千葉県公立高等学校協議会 開催結果

- 1 日 時 令和5年7月14日（金） 午後1時から午後1時53分まで
- 2 場 所 ホテルプラザ菜の花3階「菜の花」（千葉市中央区長洲1-8-1）
- 3 出席委員（委員：総数13名中13名出席）
福中儀明委員、横瀬正史委員、佐藤晴光委員、佐久間勝彦委員、
川並芳純委員、日根野達也委員、矢部明委員、鈴木宏子委員（会長）、
三浦幸子委員（副会長）、染谷篤委員、藤ヶ崎功委員、鎌形悦弘委員、
冨塚昌子委員
- 4 事務局 知事部局 総務部学事課
教育庁 企画管理部教育政策課
教育振興部学習指導課、教職員課
千葉県私立中学高等学校協会
- 5 傍聴者 3名
- 6 会議次第
開 会
議 題
（1）令和5年度公立高等学校入試結果報告について
（2）令和6年度公立高等学校生徒募集計画（案）について
（3）令和6年度入学者選抜等に関する報告事項について
閉 会

7 議事概要

- （1）令和5年度公立高等学校入試結果報告について

○事務局説明

資料「令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果及び入学者数について」及び「令和5年度私立高等学校入学者選抜結果」により事務局から説明。

（説明概要）

公立高校	全日制	定員	31,200名
		入学者	29,265名
	定時制	定員	1,440名
		入学者	816名

私立高校	全日制	募集定員	15,912名
		入学者	16,632名
	通信制	募集定員	4,854名
		入学者	3,584名

※公立高校全日制については、併設型中学校、附属中学校からの進学者数を含む。

○意見・質疑応答
特になし。

(2) 令和6年度公私立高等学校生徒募集計画(案)について

○事務局説明

資料「高等学校生徒募集に係る基本方針」、「県内中学校卒業生の進学状況の推移」、「県内全日制高等学校第1学年在籍生徒数と募集定員の推移」及び「令和6年度公私立高等学校生徒募集計画(案)」により事務局から説明。

(説明概要)

- ・令和6年3月中卒者数を53,190人、うち進学者数を52,605人と推計する。
- ・公立高校募集定員は、中卒生徒数の推移、過去の実績等を勘案し、30,920人とする。(併設型中学校、附属中学校等からの当該高校への入学者を含む。)
- ・私立高校募集定員は、各設置者が生徒収容状況、県内の中学校卒業生数等を考慮し、学則定員の範囲内で定めた結果に基づき、15,930人とする。

○意見・質疑応答
(佐久間委員)

「高等学校生徒募集に係る基本方針」では、公立高校の生徒募集は、中学校卒業生徒数の推移、過去の実績等を勘案し、募集定員を定めるとある。

資料「県内全日制高等学校第1学年在籍生徒数と募集定員の推移」では、令和5年度の公立高校の第1学年在籍生徒数は、29,268人である一方、令和6年度の公立高校の募集定員案は30,920人となっている。近年においては、2,000名程度、募集計画値より下回った受け入れ数となっている現状の中、どのようにこの数を確保するのか。

過去の実績をどのように勘案されているのかお聞きしたい。

(事務局 教育政策課)

応募生徒数が年々上がっていて、募集計画値を上回る応募があり、直近の倍率は1.12倍となっている。

たしかに、募集定員と受け入れ生徒数の乖離はあるが、定員が未充足

となっている学科は、その半数以上が職業系の専門学科であり、産業人材の育成の観点からも即学級減とすることは難しい状況である。

公教育のあり方として、多様な人材を育成する立場から、数字のみで議論することはなかなか難しいと考える。

今回の280名減は、実際の卒業生の状況、過去の進学率、受け入れ実績等を踏まえて、総合的に勘案した結果である。

(佐久間委員)

船橋市、浦安市、市川市などの都市部でも未充足校がある。15歳人口が増えていた時代は、県として学校を設置する必要性があったと思うが、今は15歳人口が減ってきて、中卒者数に対する学校数が多すぎる。

都市部の未充足は数年続いているのだから、今においても中長期的に対応するとするのではなく、速やかに定員を減らすことが、基本方針の過去の実績を勘案した公立高校の定員になると考える。

(事務局 教育政策課)

都市部の学校で、未充足の学校があることは確かである。未充足は南部の学校だけでなく、北部の学校にも出ているが、これは募集定員に関わる問題というより、大きな全県的な高校の再編に関わるもので、こうした単年度の協議会においてというより、大きな政策的な話で、中長期的に対応していくのが適切と考えている。

(佐久間委員)

県教委は正しいと思ってやっていると思うが、県民の目から見てどうなのか疑問である。公立高校の定員、学校数は、都市部においても実態に合っていないことを率直に認識して、直ちに手を打つべきと考える。

かつては、私立高校の未充足校で二次募集をするということが出ていたが、近年は県立高校が未充足で二次募集をするというのがマスコミを通じて県民の目に届いている。これは、県立高校の数や定員が多すぎるからである。

県教委は、こういう状況を真摯に受け止め、考えてもらいたい。

(富塚委員)

数年にわたり県立高校の多くの学校、学科で定員未充足が続いていることは、この協議会でも指摘を受けてきたところである。そういった現実の中で、地域的な偏りや問題点も踏まえて、今回7クラスに相当する280名減という判断をした。公立と私立の入学者割合は、かつては、7割ほどが公立に入学していたが、現在は私立への入学者が非常に増えており、公立の入学者割合は64%ほどになっている。県内全日制高等

学校進学者数は、前年度比で 326 人減ると見込んでいるが、その 86% ほどに当たる 280 人を公立で、実績を踏まえて引き受けていると捉えていただくこともできるのでないか。

県立高校改革推進プランに基づいて、具体的な再編統合計画を今後作成し公表しなければならないと考えているが、その際には、佐久間委員の指摘も踏まえ、都市部について少し目を向けていきたいと考えている。

再編統合の具体的な動きの中で、全県的な視点で見て、実態により近づけていくということがあると思うが、地域の担い手の確保や、地域のあり方を考えたときに、果たしてこれ以上の減をしてよいのか、なかなか県として踏み切る段階にない状況の中で、地域ごとの状況や、生徒の通学状況等を踏まえて、現時点での精一杯の定員減として出した数字である。

基本方針の中では、公私が協調・共存して、高校教育の充実に努めるとある。公私の協調・共存ということが、まず大きな目的であるので、これに向かって、公私を問わず今抱えている、生徒の多様化への対応等について、公私がそれぞれの強みを生かして、ともに教育の充実に切磋琢磨しながら励んでいきたいと考えている。

県としても、さらに努力を続けるということ、そして毎年の協議だけでなく、大きな再編統合の中で、今日指摘のあった地域的な課題についても十分踏まえて、再編統合の方向性を打ち出していく。今年度については、この方針で御理解いただきたい。

(川並委員)

県立高校の教職員の数というのは、この計画に基づいて配置されているのか。それとも実際にいる生徒の数に応じて配置されるのか。

(事務局 教職員課)

教職員の数については、毎年の募集学級数に加え、すでにいる学年の学級数によって、国で定められている数があるので、それを国に要望し、その数字をいただいている。

(川並委員)

学級数ということは、実際的人数に応じてということで、例えば定員が 120 人でも 80 人しか生徒がいなるときは、80 人の生徒に対する教職員が配置されるということか。

(事務局 教職員課)

学級数なので、生徒の実人数ではなく、40 人を標準とした学級の数で計算することになっている。

○協議結果

原案のとおり承認された。

(3) 令和6年度入学者選抜等に関する報告事項について

○事務局説明

資料「令和6年度千葉県県立高等学校入学者選抜の日程」及び「令和6年度千葉県私立高等学校生徒募集に関する申し合わせ事項」により事務局から説明。

(説明概要)

県立高校 (一般入学者選抜)	本検査	令和6年2月20日(火曜日) 令和6年2月21日(水曜日)
	追検査	令和6年2月29日(木曜日)
	入学許可 候補者発表	令和6年3月4日(月曜日)
私立高校	前期選抜試験 実施の始期	令和6年1月17日(水曜日)以降
	後期選抜試験 実施の始期	令和6年2月15日(木曜日)以降

○意見・質疑応答

特になし。